

巻頭言

天災は忘れたところにやってくるというのは明治の偉人の言葉ですが、前の災害を忘れないうちに次が起こると思えるぐらい日本のあちこちで被害が出ています。東日本大震災から7年が過ぎ国の復興資金支援が終わりますが、復興はまだ道半ばです。日本赤十字社岩手支部は再度「私たちは忘れない」をスローガンに被災された方々への支援を継続しております。その活動を赤十字社の一員として支える盛岡赤十字病院は地域医療支援病院として日々良質な医療の提供をおこない復興支援に協力しています。私たちの行っていることを伝えるためには記録に残し第三者の目に触れさせることが大切なことです。数字や経時的記録は年報の役割で、この「盛岡赤十字病院紀要」は私たちの考えが記録されます。

「紀要」は刊を重ねて外観はA4版になりページ数が増え医学中央雑誌の文献検索データベースに採用されております。文献検索を通じて多くの人の目に触れご自分の名前や「盛岡赤十字病院紀要」が引用された論文や記事・書物を見る機会が多くなるでしょう。長い間編集委員長を務められ、しっかりとした査読制をしき英文抄録をつけるなど紀要のオーソライズに尽力されてきた阿部知博第一放射線科部長が平成30年5月1日に旅立たれました。業績に感謝申し上げます、ご冥福をお祈りいたします。

盛岡赤十字病院紀要 Vol.27 は症例報告や臨床経験、研修医によるCPC、院内で研究発表の形で行われた技術・実践・業務分析など、院内の活発な活動内容を満載しております。

本紀要は主として図書委員会メンバーの献身的なご尽力により毎年発刊されております。職員一同を代表して御礼を申し上げます。

院長 松田 壯正